

ツルゴケ科

イトヒバゴケ

Cryphaea ovobatocarpa Okam.

兵庫県ランク… A

環境省ランク… CR

■ 県内分布

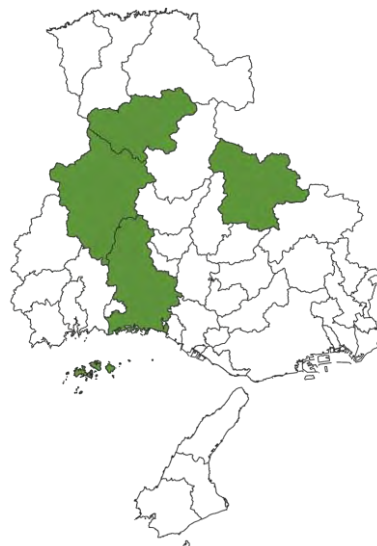
姫路市、宍粟市、養父市、丹波市

■ 国内分布

本州、四国

■ 選定理由

人為性		特殊性		学術性	
生育環境破壊	○	特殊生育環境		特殊な分布	
観賞用等採取		特異な生態		分布の限界	
				希少	○



■ 特記事項

クワ栽培が盛んな頃は、それほど珍しくなかったが、現在ではほとんどの産地で絶滅している可能性が高い。

■ 保護上の留意点

—

■ 種の概要

一次茎は細くはい、二次茎は長さ3-4cmで立ち上がり、不規則に分枝する。枝葉は卵形で長さ1.5-2mm、先端は急に細く尖り、ほぼ全縁か葉先近くに細かい歯がある。葉は乾くと茎に接して縮れない。中肋は太く、葉長の約3/4に達する。葉身細胞は楕円形で厚壁。雌雄同株(異苞)。蒴柄は非常に短く、倒卵形の蒴は苞葉間に沈生するが、ふつう数個の蒴が同じ茎や枝の上に並ぶ。外蒴齒は披針形、内蒴齒は線形でやや短く、いずれもパピラで覆われる。胞子は直径30-40μm。帽は平滑。郊外や山地のクワやカキ等の樹上に生育するとされるが、ノグルミを特に好み、落ち枝を探すと見つかることが多い。